

かさじぞう (A)

(ナレーター1、2が上手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター1 「むかしむかし、あるむらに、こころのやさしいおじいさんとおばあさんが、すんでいました。ふたりはびんぼうで、あしたはおしようがっただというのに、こめもおかねありません」

ナレーター2 「それでも、むらの子どもたちは、おじいさんとおばあさんがだいすきで、いつもあそびにきては、たのしくすごしていました」

ナレーター1 「それにしても、きょうはとてもさむいちにちです」

ナレーター2 「空を見上げてから」おやおや、しろいゆきが ふつてきましたよ
(一礼し下手へ退場)

第一場面

(幕が開く。舞台はおじいさんの家の中。子どもたちは家の中で剣玉をして遊んでいる。おばあさんは、いろりの前に座って縫い物をしている。おじいさんは、腕を組んで立ち、家の外(下手)を見ている)

おばあさん 「手を止めて」おじいさん、なんだかさむくなってきましたね」

おじいさん 「空を見上げて」ほんに、ゆきがふつてきたわい。(笑顔で)いぬ

のこが、うれしそうに、ゆきをおいかけておるぞ」

(子どもたち、遊びの手を止め、観客に向かって直立し)

子ども1 「いぬのこが」

子ども2 「おうてゆくなり」

子ども3 「ゆきつぶて」

子どもたち 「(声をあわせて) いっさー!」

おばあさん 「これはおどろきましたね。どこでそんなはいくをおぼえたの?」

子ども4 「わたしたち、おじいさんにおしえてもらったの」

おじいさん 「(笑いながら頭をかいて) そんなことあったかなあ。じゃあ、これはどうだ?はつしぐれ・・・」

子どもたち 「(声をあわせて) さるも こみのを ほしげなり ぼしよう」

おばあさん 「みんな、よくいえましたね。きょうのようにさむいと、おさるさんもさむそうで、ちいさいみのがほしそうにみえる、というはいくですね」

子ども1 「ぼくは、ちいさいみのより、なにかたべるものがほしいよ。さつきから、おなかがへって。へこへこなんだ」

こども2 「あたしもよ！おなかのかわとせなかのかわが、ひつつくら
いよ」

こども3 「ぼくもだよ。でも、おじいさんとおばあさんに、あんまりむりを
いったら、きのどくだよ」

おじいさん 「だいじょうぶだよ。さあ、おばあさん、なにかたべるものはない
かい？」

おばあさん 「(横に置いてあったお釜の底を見せて) それももう、うちにはこ
はんがこれだけしかなくて」

おじいさん 「そうか。それは、おしよがつようにとっておいたこめだからな
あ」

おばあさん

(ポンと手を打って) 「おしよがつが、いちにちはやくきたとお
もえばいいんです。こどもたちもあそびにきてくれたことだし、い
まからごはんをたいて、おいしいおにぎりのよういをしてあげまし
よう」

こどもたち

「わーい。おばあさん、ありがとう」

おじいさん 「おばあさん、すまん。う。じゃあ、わしはまちにいつて、このた
きぎをうってくることにするよ」(と行ってたきぎの入ったかごを
背負う)

おばあさん

「おじいさん、そんなむりをしなくてもいいですよ」

おじいさん 「いやいや。これでもまちでうれば、おもちのひとつやふたつ、か
えるだろうしな」

こども1

「(立ち上がって) おじいさん、ぼくもいっしょについていくよ」

こども4

「(立ち上がって) わたしもついていっていい？」

おじいさん 「これこれ、あそびじゃないんだよ。それに、まちまでのみちのり
はとおいんだよ」

おばあさん

「それに、おなかをもっとへりますよ」

こども2

「でも、おなかをへこへこにしたほうが、ごはんもおいしいんだよ」

こども3

「ぼくも、なにかおてつだいがあったんだよ」

こども4

「おばあさん、かえってきたら、みんなのおにぎりをよろしくね」

(子どもたちも出かけるしたくをする)

おばあさん 「はい、はい。じゃあ、ゆきがふっているの、みんなきをつけて
いつてらっしゃい」

おじいさん

「じゃあ、おばあさん、いつてくるよ」

こどもたち

「いつてきまーす」(手を振る)

おばあさん

「いつてらっしゃーい」(手を振る)

(こどもたち、おじいさんとともに下手へ退場)

(ナレーター3・4が上手より舞中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター3

「こうして、おじいさんと子どもたちは、まちにむかつてげんきよくあるいていきました。ぶじにまちにつくと、さつそく『たきぎはいりませんか?』とみちゆくひとたちに、こえをかけましたが、どういうわけか、たきぎはひとつもうれません」

ナレーター4

「だんだんふるゆきもつよくなり、おじいさんは、たきぎをうるのをあきらめ、子どもたちといっしょに、いえにかえることにしました」

(一礼し下手へ退場)

第二場面

(幕が開く。舞台は町の市場のはずれ。おじいさんと子どもたちは、たきぎを売っている)

子ども1

「いらっしやーい、いらっしやーい。みなさーん、たきぎはいりませんか?」

子ども2

「よくもえるたきぎですよー」

子ども3

「いまなら、やすくしておきますよー」

子ども4

「さあ、かった、かったー」

おじいさん

「(間をおいて) みんな、ありがとう。きょうはもうこれくらいにして、いえにかえろう。さむいおもいをさせてすまなかつたな」

子ども1

「だいじょうぶだよ。おじいさん、もうすこしがんばろうよ」

子ども2

「もうちよつとまてば、きつとだれかがかいてきてくれるわ」

子どもたち

(全員で声を合わせ)「いらっしやーい、いらっしやーい。たきぎ

はいりませんかー」

おじいさん

「みんな、ほんとうにありがとう。はやくかえらないと、かぜをひいてしまうよ」

子ども3

(下手を指さし)「おや、だれかがこっちにむかつてあるいてくるよ」

子ども4

「かさうりのおじいさんのようね」

(下手より笠売り登場。おじいさんと子どもたちの前に来て立ち止まる)

かさうり

「おや、となりむらのおじいさんじゃないか。こんなところでなにをしているんだい?」

おじいさん

「ごらんのとおり、たきぎをうっているんだよ」

かさうり

「けいきはどうだい?たくさんうれたかい?」

おじいさん

「(頭をかいて) それが、そのー」

子ども1

「じつは、ぜんぜんうれなくて、こまっていたんです」

子ども2

「おじいさん、たきぎはいりませんか?」

かさうり
こども3
かさうり

「すまないが、たきぎはもうまにあっているよ」
「ちよつとだけでもいいですよ」
(腕を組んでしばらく考えた後、ポンと手を打って)

「よし、こうしよう。わしのかさとおじいさんのたきぎをこうかんする、というのはどうだろうか?」

こども4

「え、どういうことですか?」

かさうり

「おじいさんにはわかるいが、そのたきぎじゃ、うれてもせいせいごはんいちぜんぶんだ。わしのかさも、ひとつでちよつとごはんいちぜんぶんだ」

こども1

「そのかさとたきぎをこうかんしてくれるんですか?」

かさうり

「ま、そういうことだ。ただくいえば、このかさひとつと、おじいさんのたきぎとをこうかんする。のこりのよつつのかさは、わしからみんなへのおくりものだ。かぜをひいたら、としをこせないからな」(と言って、一人一人の頭の雪を払いながら、左から順に笠を頭にかぶせていく)

おじいさん

「おお、これありがたい」

こどもたち

「(かさうりに向かって頭を下げ) おじさん、どうもありがとう」

かさうり

「じゃあ、みんなたつしやでな」(手を振って下手に去っていく)

こども2

「このかさがあれば、ゆきがふつてもだいじょうぶだわ」

こども3

「しんせつなおじいさんにあえて、ほんとうによかったね」

こども4

「おばあさんもきつとよろこんでくださるわ」

おじいさん

「おじいさんも、そうおもうよ。じゃあ、いえにむかって」

こどもたち

「(声をあわせて) しゅっぱーっ」

(一同、下手に退場)

——暗転——

(ナレーター5・6が上手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター5

「こうしておじいさんとこどもたちは、いえにむかってげんきにしゅっぱつしましたが、だんだんふるゆきもはげしくなり、おもうようにあしがうごかなくなってきました」

ナレーター6

「みんなおなかもすいてペコペコです。おじいさんとこどもたちは、これからいったいどうなるのでしょうか」

(一礼し下手へ退場)

第三場面

(笠をかぶったおじいさんと子どもたちが下手より登場し、ゆっくり上手に向かって歩いていく。舞台奥には、頭に雪の積もったお地藏さまが六体並んで立っている)

こども1 「おじいさん、くたびれてもうあるけないよ」

こども2 「わたしも、ちよっとつかれたわ」

こども3 「ぼくは、おなかのかわとせなかのかわが、ひつつきそうだよ」

おじいさん 「だいぶあるいたからな。じゃあ、ここですこしやすんでいいかうか」
こども4 (お地藏さまを指さして) 「わっ、こんなところに、おじぞうさまが！」

こども1 「ほんとうだ。おじぞうさまのあたまには、まっしろなゆきがいっぱいもっているよ」

こども2 「かわいそうに。わたしがおじぞうさまのゆきをはらってあげましょう」(と言って、左端のお地藏さまの頭の雪を払おうとする)

こども3 「だめだよ。どんなにはらっても、ゆきがまたつもってしまふよ」

こども4 「おじいさん、どうしたらいいの？」

おじいさん 「ほんとうにおきのどくじゃ。わしらにはいえがあるからいいようなものの、おじぞうさまは、やねもなく、さぞおさむかるう」

こども1・3 「こまったなー(腕を組む)」

こども2・4 「こまったわー(指をほおにあてる)」

こども1 (ポンと手を打って) 「そうだ！このかさを、おじぞうさまにかぶせてあげたらいいんだ」

こども2 「それはいいかんがえね」

こども3 「しんせつでもらったかさだ。こんどは、ぼくらがしんせつをするばんだ」

こども4 「そうね、おじぞうさまも、きつとよろこんでくださるわ」

おじいさん 「おまえたちは、ほんとうにやさしいのお。じゃあ、じゅんばんにおじぞうさまにかさをかぶせてあげよう。おまえたちもてつだつておくれ」

こども1 (こどもたちとおじいさん、左のお地藏さまから順にかさをかぶせていく)

おじいさん 「(最後のお地藏さまの前に来て) あれあれ、かさがひとつたりないぞー！」

こども1 「ほんとだ。かさはもうひとつもないよ。おじいさん、どうしたらいいの？」

(全員、腕組みをして考えるポーズ)

おじいさん (ポンと手を打って) 「そうだ。このほおかむりを、おじぞうさまにかぶせてあげよう」

おじいさんは、最後のお地藏さまに自分のかぶっていたほおかむりをかぶせ、手合わせておがむ。こどもたちも手を合わせておがむ

こども2 「まあすてき！おじぞうさまも、よろこんでおられるみたいね」

おじいさん 「わしのふるいほおかむりじゃが、ほんとうによろこんでくださるといいなあ。(こどもたちに) おまえたちもてつだつてくれて、

ありがとう」

こども3

「どういたしました。でも、いえにもつてかえるものが、なにもなくなつたね」

こども4

「でも、おばあさんならきつとわかつてくれるとおもうわ」

おじいさん

「そうだね。おじいさんもそうおもうよ。おなかもすいただろう。はやくおうちへかえろう」

こどもたち

「(元気に声をあわせて) さんせーい」

(おじいさんとこどもたちは上手に退場)

——暗転——

(ナレーター7・8が下手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター7

「こどもたちは、おなかがすいていましたが、なぜかこころはかく、げんきなあしどりで、いえにむかつたのです」

ナレーター8

「ただ、おじいさんは、なにももたずにいえにかえることを、すこしもうしわけなくおもっていました」

(一礼し上手へ退場)

第四場面

(おばあさんは家でおにぎりを作っている。おじいさんとこどもたち、下手より登場)

こどもたち

「(声をあわせて元気に) ただいまー!」

おばあさん

「おかえりなさい。ゆきのなかをたいへんでしたね。さあ、はやくおうちのなかにおはいりなさい」

おじいさん

(動かず下を向いて) 「それが・・・」

おばあさん

「どうかしましたか?」

こども1

「たきぎは、すこしもうれなかつたんだよ」

こども2

「でも、しんせつなおじいさんが、かさとりかえてくれたの」

こども3

「そのおじいさんは、かぜをひかないようになって、ぼくたちのぶんまで、かさをくれたんだ」

こども4

「でもね、かえるとちゅうで、さむそうにしていたおじぞうさまに、もっていたかさをみんなかぶせてあげたから、もうひとつものこっていないのよ」

おばあさん

「おじぞうさまにかさをかぶせてあげたんですって?それはいいことをしましたね。おじぞうさまも、きつとよろこんでおられるでしょう」

おじいさん

「(顔を上げて、頭をかきながら) おもちをかえなかつたんだが、ゆるしておくれ」

おばあさん

「おもちがなくても、おしよがつはちゃんときますよ。さあ、みんなでおにぎりをいただきますしよ」

こどもたち

「(声をあわせて) ばんぎーい」

(おばあさんは、お盆に載せたおにぎりを一人ひとりに配る。おじいさんに配りながら)

おばあさん

「さあ、おじいさんもどうぞ」

こども1

「みんなに向かつて」じゃあ、いつものように声をあわせて」

こども2

「いただきますのよいをしましょう」

こども3

「よくよくかんで」

こども4

「たのしくたべましょう」

こどもたち・おじいさん

「声をあわせて」いただきます！」

おばあさん

「さあ、ほしだけ、たんとおあがり」

おじいさん

「下手を向いて耳を澄ませる」おや、あれはなんのおとだろう？」

おじいさん

「下手を向いて耳を澄ませる」おや、あれはなんのおとだろう？」

(下手から、「お地蔵さまの歌」が聞こえてくる。一同、下手を向いて耳を澄ませる。お

地蔵さま、下手から並んで登場。米俵、金銀、宝の山の入った箱をひいてくる。一同

驚いて見つめる。お地蔵さまは家の前まで来る)

お地蔵さま1

「戸をたたきながら、ゆっくりと」こころのやさしいおじいさん、

おばあさん

、そしてこどもたち」

(お地蔵さまとみんなが向き合って)

お地蔵さま2

「きょうは、ほんとうにありがとう。みなさんのおかげで、さむさ

お地蔵さま3

に」こころにすみました」

お地蔵さま4

「米俵をさしだし」これは、わたしたちの、ほんのおれいのきも

おじいさん

ちです」

お地蔵さま5

「受け取って」わあ、なんと、ありがたい！」

お地蔵さま6

「みんなで、たくさんおもちをたべてください」

こどもたち

「みんなで、なかよくすごしてください」

お地蔵さま1

「声をあわせて」おじぞうさま、ありがとうございます」

お地蔵さま2

「かさのおかげで、わたしたちもよいおしょうがつがむかえられま

お地蔵さま3

す」

お地蔵さま4

「こころのやさしいみなさんにも、よいおしょうがつがきますよう

お地蔵さま5

に」

お地蔵さま6

「いつまでも」

お地蔵さま7

「やさしい」こころと」

お地蔵さま8

「かんしゃのきもちをもって」

お地蔵さま全員

「声をあわせて」げんきで、なかよく、くらししてください」

(お地蔵様ふりむいて下手に退場。一同、お地蔵様が退場するまで手を振って見送る)

おばあさん

「なんとおめでたいこと！さあ、みんなでおいおいのうたをうたい

こどもたち

ましょう！」

(声をあわせて)「さんせーい！」

(音楽。今までの登場人物がつぎつぎに出てきて、楽しく踊るうちに、幕)